令和８年度　清瀬市立清瀬第五中学校　校長室たより　10月ノ４号　発行日 R8,10,27　五中 HP

ひまわりノ畑

教育目標　思索・和敬・剛健
学校スローガン　笑顔と あいさつ そして ありがとう

http://www.kiyose.ed.jp/kiyosedaigotyuugakkou/index.htm

清瀬から広がる「読書の波紋」

～ 10/17(土) ビブリオフォーラム 《清瀬教育の日》～





10/17(土)の清瀬教育の日最終日、アミューホールで、ビブリオフォーラムが開催されました。書評発表会という形式は、都立清瀬高校を会場として、市内小学生から高校生までが参加して行われた令和３年度からです。

清瀬市は、バトルから、フォーラムへ

東京都教育委員会では毎年、『高校生言葉の祭典「高校生書評合戦（ビブリオバトル）」東京都大会』が開催されています。参加者が本を持ち寄り、その作品についてプレゼンテーションを行い、参加者が「一番読みたいと思った本（チャンプ本）」を投票で決めるという大会で、書評の手腕もポイントになる競技的な要素があるイベントです。高校生になったら参加してみて下さい。

清瀬のビブリオフォーラムは「読書によって得た感動を他者に伝える活動を通して、読書に対する興味・関心を高めるとともに、お互いの発表を聞き、各学校との交流を図ること」を目的に、バトル的要素を抜きにして、読書好きな生徒が集まり、互いにお気に入りの本を紹介し、感想や意見、質問を語り合い、そこから沢山の人たちに、読書の面白さを伝えようという清瀬市らしいイベントです。

オンラインで、福島県 と 北海道 と 清瀬 を結んで、１１名の中学生が参加しました！

初回から幾つかの変遷を経てこの形式となったフォーラムですが、今年は、清中・二中・三中・四中・五中の市立中学校５校と、市内の私立東星学園中学校、さらに「福島県北塩原村立第一中学校」と、「北海道音威子府村立音威子府小中学校」の生徒さんもオンラインで参加し、１１名の生徒が、書評発表をしてくれました。発表した生徒さんの本や登場人物に対する思い入れや、読書を楽しむ心に溢れるプレゼン、それに対して、各生徒からの質問や感想など、大人の出る幕がないと感じる書評発表でした。そして何より、休憩時間に、初対面の発表者どうしなのに、本の話で盛り上がっている様子には驚かされ、本好きが集まると、化学反応が始まり、凄いエネルギーが放出されるようにも感じました。清瀬を波源として、波紋のように読書の波が広がると嬉しいです。

北塩原村立第一中学校さんの HP で、OL の様子が紹介されています。右上の QR からご覧頂けます。

https://kitashiobara.fcs.ed.jp/dai1-jh/plugin/blogs/show/3/16/1061

《本校の参加生徒と紹介本》

２年生　紹介本「手紙」　著：東野圭吾

１年生　紹介本「さよならの言い方なんて知らない。」　著：河野裕

※家庭配布版では生徒氏名とご鍾愛しています。

《紹介された書籍》

「のだ」著：真野真央
「身から出た闇」著：原浩
「モモ」著：ミヒャエル・エン
「こころ」著：夏目漱石
「イン・ザ・メガチャージ」著：朝井リョウ
「総理にされた男」著：中山七里
「すりへらない心のつくり方」著：保坂隆
「また、桜の国で」著：須賀しのぶ
「あの花が咲く丘で、きみとまた出会えたら」著：汐見夏衛



最近出版されたものから往年のもの、ファンタジー系、ホラー系、重いテーマのものまで色々なジャンルの紹介がありました。機会があれば、今回紹介された本を手に取って頂けると嬉しいです。

■１０月の避難訓練は、防火扉を作動させて、実施しました。


防火扉を通って階段へ

毎月、避難訓練を実施していますが、10/16 は火災を想定した訓練でした。６月に北区の小学校で発生した火災を教訓に、清瀬市では防災体制の確認等を行っています。夏休み中に、各校の担当者が清瀬小学校に集まって、清瀬市消防署の協力を得て、防災訓練を行い、各校ではその知見を基に、各学校での防災訓練の見直しを行いました。

１０月の避難訓練では、階段の防火扉が作動した状態で、実施をしました。防火扉が閉まっていると、普段見慣れているはずの廊下や階段が、とても狭く、閉鎖された圧迫感となり、防火扉に設けられた非常口の足下には敷居ができ、そこに足をひっかけたり、閉まりかけるドアを抑えたりと、通過に手間取りました。さらに校舎外に出る経路も変わるなど、ずいぶんと障壁が増えることがわかりました。校庭まで避難をして、人員点呼まで、いつもは４分少々ですが、今回は６分以上もかかってしまいました。実際の火災では、さらの煙が発生して視界が悪くなり、匂いも迫るなど、さらに切迫感が増すと想像できます。実際に近い状態を経験をしておく大切さを感じました。

さらに２学期に入り、消防署による立ち入り検査を受け、改善点を指摘して頂き、先々週には、２回目の確認検査がありました。まずは火事が起こらないようにすること、訓練が訓練で終わることが一番です。

～～～

■校外学習（１年）、職場体験（２年）、修学旅行報告会（３年）へ向けて


1年栞読み合わせ


3年資料作成


2年講習会

10/23(金)の総合的な学習の時間、１年生は一週間後に迫った川越校外学習の栞の読み合わせや、班長任せにならないようにと、川越の地図や自分の見学経路の確認など、班ごとに最終確認会議を行いました。

３年生は、修学旅行と合唱コンクールという大きな行事を立て続けに終えましたが、本日は、修学旅行報告会用の資料作成を班ごとに行っていました。

２年生は一ヶ月後に迫った職場体験に向けて、５時間目は、これから事前訪問をする際の電話でのアポイントメントの取り方・電話のかけ方について、練習をし、６時間目は、先週の職業講話に続いて、ハローワークの関氏に来校頂き、職業マナー講座を行いました。職場体験では、社会人の疑似体験でもあり、そのためには社会人としての基本的なマナーを学びました。マナーは、「人間関係や社会秩序を維持するために、人が守るべき行動形式、その場に居合わせた者が無駄な不快感を引き起こさない所作、振る舞い、その文化で生きる時の行儀」であるという基礎的なお話から、時間を守ることは信頼に、所作はその人の印象につながるなど、それぞれの大切さ、そして、時間に遅れた時の連絡内容やその方法、その状況に応じた挨拶の仕方などの基本を具体的に学びました。私たち大人が聞いても、マナーの基礎基本を振り返ることができる時間となりました。

ノーベル化学賞　おめでとうございます。



10/7（水）にスウェーデン王立科学アカデミーは、東京理科大学の硤合（そあい）憲三名誉教授に、今年のノーベル化学賞を授与すると発表しました。おめでとうございます。

自然科学部門としては、昨年度の北川進京都大学特別教授と、坂口志文大阪大学特任教授に続いて、２年連続です。昨年度の北川教授は「無数の微細な穴を持つ、多孔性の新しい材料の開発」で化学賞を、坂口教授は「制御性 T 細胞」の発見で生理学・医学賞を受賞されました。今回は、「不斉自己触媒作用の発見」での受賞でした。通称 Soai 反応と、発見者の名前で呼ばれるくらい、有機化学界隈ではすごい発見とのことです。しかし内容がやや難しくもあり、世間ではあまり話題になりませんでしたが、ノーベル委員会は、受賞理由で「100 年以上続いた化学の謎への解答をもたらした」と評価しています。どのような発見で、どんなことに役立つのか？と説明すると、長くなりますが、理科の菊地先生が、授業での紹介用に解説レポートを作成してくださいました。右の QR コードからご覧いただけます。

https://cms5-kiyose.tsunago.info/system/assets/projects/project_education/_page_/002/006/675/2026nobelprizesoaikikkuchit.pdf?_=1792973608